

家族の介護と健康を支える学研の情報サイト



キーワード検索



ホーム



認知症を学ぶ



健康を学ぶ



介護を学ぶ



専門家から学ぶ

coming soon
健達相談所[トップページ](#) > [介護お役立ち記事](#) > [お役立ち情報](#) > [高齢者を心と住居の側面からサポートする企業を紹介！](#)

高齢者を心と住居の側面からサポートする企業を紹介！

公開日: 7月 29, 2022 [お役立ち情報](#), [介護お役立ち記事](#)

スポンサーリンク

私たちは誰もが歳をとり、いずれは誰かの介護が必要になる場合があります。

それ自体は、誰もが直面する可能性のあることです。

しかし、今まで自分ができていたことができなくなることは、介護を受ける側にとっては莫大なストレスになります。

介護をする人は、被介護者がどういう状態かわからない。

耳の遠い人との付き合い方がわからない。

介護に時間を取られ仕事を変えざるを得なくなった。

被介護者は、どうやって自分の能力を維持していけばいいのかわからない。

相手が自分の状態を理解してくれない。などです。

そのため、介護の現場では相互理解に加え、介護に的した環境を作ることが必要になります。

本記事ではそのような高齢者の心と住居の側面からサポートしてくれる企業を3つ紹介いたします。

目次

- 1 [テレワークネット合同会社](#)
- 2 [株式会社 オトデザイナーズ](#)
- 3 [有限会社げんごろう \(言語朗\)](#)

スポンサーリンク

|| テレワークネット合同会社

■ 会社概要

テレワークネット合同会社は2010年に東京都町田市に設立された会社で2021年から現在の名称で運営されています。事業内容として

- ・ WebRTC Web会議システム [VivaMeetin](#) の運営
- ・ 非対面面談システム [mendian.net](#) の運営
- ・ 決済機能付きオンライン接客サービス MeeChaa の運営

※ 主なサービスについては、

[ホーム](#)[検索](#)[メニュー](#)

政府をはじめ東京都、東京都中小企業振興公社など様々な公的機関から表彰・認定を受けており、確かな技術力と将来を豊かにするサービスを提供し続けていることが証明されています。

ではこの会社が介護とどういう関係があるのかというと、この企業自体がフルでテレワークを行い、介護者の就業支援を行っています。

介護離職は現在大きな社会問題の一つになっています。

日本の現状として高齢者の数に対して施設の数が足りていないのが現状のため、政府は在宅介護を推し進めています。また、介護を受ける方も施設ではなく自宅で過ごすことを望んでいる人が60%を超えていることが社会保障審議会医療部会により発表されています。

しかし、その弊害として介護者が自宅にいない必要が増えることです。

介護の量はその被介護者の状態により様々ですが、重たい人ほど介護者が自宅に拘束される時間が増えてしまいます。在宅介護向けのサービスもありますが、利用時間が決められている関係上、介護者が1日何も心配せずに働ける時間というのはどうしても減らす必要があります。

そうすると、時短勤務や介護休暇を利用するということになります。

しかし、会社もそこまで余裕がある会社ばかりではないし、介護で疲れているのに通勤をしなければならないという状況にもなり結果として、仕事を辞めてしまうという状況に陥りやすいのです。

平成24年度厚生労働省委託調査の「仕事と介護の両立に関する労働者アンケート調査」によりますと、離職時の就業継続の意向については男女ともに5割強が「続けたかった」とし、二人に一人は就業継続を希望していたことがわかります。

また離職後「負担が増した」としている人は、「精神面」について64.9%、「肉体面」について56.6%、「経済面」について74.9%であり、負担減となると考え離職したものの、逆に負担が増したとの回答割合が高くなっています。

■ 時間制約を最小限にできるテレワーク

テレワークの特徴はまず通勤がないという点です。

平成28年度の調査では、通勤通学時間の全国平均は往復合計で1時間19分となっています。

もし、普段の生活から一日のうち1時間19分の空白の時間があれば、その時間を介護する側のリフレッシュに充てることも可能です。

また通勤が無ければ通勤電車で受けるストレスも避けられますので、介護する側の生活の質も向上し、余裕のある介護ができるようになるかもしれません。

仕事を続けたくても続けられない、その中で離職してかえって負担が増すとさらに「こんなはずではなかった、仕事を続けていればよかった」という気持ちが強くなり、それが介護をする側のメンタルにダメージを与えることも容易に考えられます。

現在はコロナの影響もありテレワークの需要やテレワークに対する理解が広まっています。テレワークネット合同会社はITで介護者の生活を助けています。

■ 運営ブログ

■ 在宅勤務介護日記

在宅勤務介護日記 避けて通れない部屋のにおい問題

実際に社員の方が介護で困ったことやその体験談をブログに掲載しており、その中で自身が利用したりしている介護用品やサービスの紹介をしています。

スポンサーリンク

株式会社 オトデザイナーズ

会社概要

株式会社オトデザイナーズは、元タリオンという補聴器のメーカーで聴覚の研究をしていた坂本 真一さんが2006年に設立したベンチャー企業です。

社長の坂本 真一さんの専門は難聴と補聴で、一般の方の聴覚心理なども研究しています。その音響心理を利用したゲームを任天堂から出したりもしています。

聴覚心理とは、耳に入ってくる音の物理的特性とそれが引き起こす感覚との関係、つまり、耳に入った音に対して、耳の解剖学的特徴に起因してヒトの聴覚系がどのように働いているのか？どんな音が、どのように聞こえるのか？どのように感じるのか？を探求する学問です。

難聴は、ほとんどの人に表れる加齢の特徴です。

主な原因は、加齢によって、渦巻き状の内耳（蝸牛）の中にある有毛細胞の毛（不動毛）が抜け落ちたりすることです。

有毛細胞は、音を感知したり、増幅したりする役割がありますので、障害を受けると、音の情報をうまく脳に送ることができないのです。

いわゆるモスキート音が聞こえないというのがわかりやすいと思います。

しかし、この加齢性難聴は誰にでも起こる反面、正しく理解しないと仕事や日常生活で大きな問題を引き起こす場合があります。

耳が聞こえ難くなることで引き起こされる、最も大きな問題はコミュニケーションです。

難聴になると情報を与える側と受け取る側の双方にストレスが生じます。

情報を与える側は相手がそれを受け取ってくれず、受け取る側は逆に受け取れないのです。

介護の現場では難聴の方は珍しくありません。

しかし、そのような状態が日常的に続くと、言っても分からないと互いに思い込み、コミュニケーション自体を諦めてしまうケースが多々あります。

最悪、単なる加齢性難聴なのに、認知症と誤解されてしまうことも！

この場合、与える側が受け取る側にどのような変化が起きているかを理解しにくいことが問題を大きくしています。

模擬難聴変換システム

株式会社 オトデザイナーズでは模擬難聴変換システムというサービスがあります。これは、難聴になった人がどのように日常を過ごしているかを体験できるものです。

私たちが話している言葉が実際に加齢性難聴の方にどう聞こえているのかを体験することができます。

さらにそれだけでなく、実際に、どうしたら難聴の相手に正しく言葉が聞こえるのか、どうしたら分